

研究通信

No. 15

会員部
研究室
本邦文庫
東京会
社説編
東京会
会員部
研究室
本邦文庫
東京会
社説編
東京会
会員部
研究室
本邦文庫
東京会
社説編
東京会

三(調査方法)

年代を追つてその変化を解明する。

本年度の

共同課題

○○○○

○研究通信No.14に発表された共同課題の方針及び、会員からの要望にしたがい、課題委員会は四月十三日(三十日)の二回に亘つて板橋区の委員会への選出出席者は、有賀・小山・大内・福武の各委員・中野・炎面・坂本・北川・松原の事務局員である。

記

一、課題「農家人口の変動と家族の構造」

二、着眼

(1) 農家人口の分析を主題とし、「これを家

族構造との関連において明確にする。したがつて、村落構造はこれを背景としてみるとこととする。

(2) 多数の統計的分析を必ずしも意図せず、むしろ小数であつても、主題にそくして深く多面的に追求する。なお、時代については、現時点を中心として出来るだけ

(1) 農業経営における農業労働力を分析し、労働力構成、労働力の年齢配分、とくに基幹労働か補助労働かの別、その家族上の地位別・性別・年令別等々。その時代的変化を追求し、増加した人口がどういう形で経営内に吸収されてきたか、もしくは、減少したことによつてその労働力構成がどう変化したかを追求する。そ

の處理の仕方は次の四つの形を考えられよう。(1)増加した人口がどういう形で経営のなかに吸収されているか(雇約化の内容)。(2)吸収されない労働力などのように自家の農業生産外で就職されるか(副業、兼業、通勤、出稼等)、更に通勤の場合には、通勤先、区域、移入、被

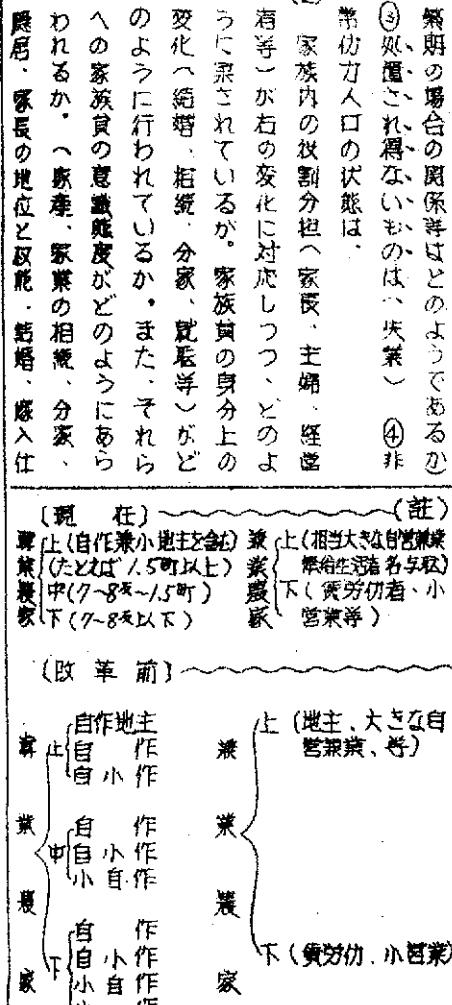
(3)処置され得ないものは、失業)。(4)非常効力人口の状態は、

(2) 家族内の役割分担(家長、主婦、經營者等)が右の変化に対応しつつ、どのように累されているが、家族員の身分上の変化(結婚、妊娠、分家、就農等)がどのように行われているか。また、それらへの家族員の意識態度がどのようにあらわれるか、(家庭、家庭の相続、分家、

度、就学、就職等々の慣行の変化への著

誌の向歴)

(八二)



牛田 泽洲

これから一一々聞いてまわるつもりです。それには当時の新聞雑誌記録組合のビル、新聞などござると相手を大な資料集が出来上ることになり、まあ今后二三年計画でやつてみるとことになります。

さて農地改革に関するレポート、一月末には完成の予定でしたのに遅さと學校の用務のためにびくくなつて、本日やつとお送りしましたがいかに非力とはいえながらかぎなぐりのまことにあつたことを表面の至りに存じて居ります。ことに社会農業の所長ど基層的古把邊の仕方をもたないためにもう少し研究の方だと存ります。その他表の作り方、漢字の使用法など、他の方と統一の必要もありましようし、どうか忌憚ない批評をいたゞいて出候までには今少しよみよじものでは添付の要はありませんでしようか。しかしあおげて私としてはいい勉強になりました。又副産物として同村の水争いや農民運動の歴史がかなり分りましたのでこれは社会学アロバーとはちがうでしようが、それについて別にモノタラフを書いてみたい気が起りました。とくに農民運動は當時の至重者（小作人地主ケイサツ、裁判所弁士）が生きているうちに西吉書を丹念に作つてナマのデータをまとめる（これがルルタージュ）としても貴重なものにありますからと考えて、

さて研究通信で来年度の課題が農家人口となつたことを知りました。元素村研のメンバーハーは社会学の外に農業經濟と日本史の方が多くなるべく加わっておられるところです。なるべくこの二三系統の研究者に交連の場をそぞりぶつことが必要だと思ひます。その意味では農家人口のテーマはいつも歴史の方からはやりにくじょうで手短いですが、私が先般提案した山村社会の方が好適だと思ひます。しかし私自身としては今年度の課題でスラクを中心にしてもらつたので今度は更にスラクの中に入つて家族の問題をやることは研究のコースとしてあつらえ向きだと書んでおる次第です。

次に調査方法ですが「この問題は農地改革問題以上に日本の地方間に差違があるはずです。」と書かれ、大内氏は同じ村のできるだけ廣い範囲でとて、交通の便不便、耕作、水田耕作の別によってちがい、更には家庭構成の相違によつてもちがつてくると思います。

したがつて調査農家の全国的配布を尋ねよう平均化し、更にその中で山村、平坦村、田村、畠村、家族数のメルクマールで調査対象を各地に分類をしめ、かかる点にこれも委員会で共通の調査のための標準案を作成する所をもつとうじうことにしたら一層理想的だと思います。そして最後に本にまとめるところを各地方に研究者が集つてその地方の成果を発表するか、或は全国を縦断的に、山村、平坦村、近郊村等に研究者が集つてまとめるかして、なるべく発表が個人化にならぬようだすことが、村研としう團体を更に有効化たらしめる上にも又個々人の研究の進歩のためにも大切だと思います。

勿論前にも書いたおほえがありますが、調査に早く着手することが秋の大会に向合せるために先決條件ですから、以上のような手続があまりに煩でしたら、まあ再来年度の課題のととにでも考慮頼う」として、ともかく四月初め頃には委員会をさめて下さり、委員の間でもまだ大分意見が違うようです。
（先生は一軒の農家を中心にくわしくしゃべると書かれ、大内氏は同じ村のできるだけ廣々の階層、型をえらぶと言っていますが）
それから「この問題につけてはすでにふれた論文や單行本が相当あるから」思ひますので、我々が利用できるように参考文献リストを通じに発表して下されば非常に便利です。

（二月二八日附、有賀亮弘也）（米子西園）

二 信

八木佐市

通

拜啓、研究會書を拜見致しました。拜讀後の感想をお尋ねの中に「と思ひ、一筆書きせて頂く次第です。

農家へ口述調査といふ場内で、深く掘り下がり、取り上げるといつ共同調査の企図には、真意を表します。併し、問題が徹底的視角に於いてなこれる方針であるだけに、その具体的な実現に当つては、前以つて可成り共通した調査方法上の規準を用意しておかねば、切否の討論もその実を少からしめるものと懸念致します。

家族と云う点で問題が分析されるわけですから、農家の対象の選択については、十分吟味が必要あります。課題の性格から見れば、この場合不是一施、農家の地盤的属性社は問題外で、広く対象として取り上げられる様ですが、矢張り、一定の村なり部落なりに限定し、大内氏の云はれる様に、あらゆる型の農家を一定戸数に対する一定比率で撰定す

るところ、サンプル数の標準が既定される必要がありましよう。対象数が多數ならば、逐一振り下げることは困難でしょうし、少なくすことも困りますから……。

次に、「こうして採用された場合、各郷について」は、時代的にも出来るだけ古くまで遡ることが必要だと思います。例えはその海には、

土申戸籍に記されている農家で現存していること

農家、といふ様に、共通の手掛りとなるものに準據して、過去から現在に至る期間を取り上げてみると、一つの方途ではないかと懸念いたします。そして、農業収入・農林統計の約束・兼業・その他についても、センサスとか或は、その他の共通したものに準據するという事も、もつと配慮されてもよしのではないかと思ひます。

要するに、年一回の討論の机会なのですから、十分に各会員の議論の実があげられる様に、問題点をしづつと、討論の要点が分散せぬ様な配慮を望みます。その為には、前述の事柄をしおうが、調査権をはじめ、調査方法上について、少くとも共通的に取上げらるべき農家の共通規定の設定を具体的に調査委員会に於て作成して頂ければと思います。

意見の開陳どころか、過問の放出任してしまいましたが、中央とは異つて、共同討議・共同研究の機会を乏しい一地方会員にとては、年一回の討論の実を心より期待しているのですから、その辺の所をくみとつて頂ければと思い、共同調査についての意見と、教示とを廻送した形で提出させていたゞいた次第です。

〔八四〕

連絡板

（広島大学）

日本年度收入公云

の大約知りセ

共同調査「農家人口の変動と農業の発達に関する本年度大会は、毎日新聞社の後援を受け、十月十八日（火）、毎日新聞、大阪本社講堂で開催されました。調査権をはじめ、調査方法上について、少くとも共通的に取上げらるべき農家の共通規定の設定を具体的に調査委員会に於て作成して頂ければと思います。

意見を頂いた、日本社会学会大会と切り替わった、日本社会学会大会なども盛会となりました。開幕式では、農業会に若干の激励も得られました。なおこの期日は、日本社会学会大会（於九州大学、十月十五日）

十六日の大坂の西田の書類は、東所も中間の大坂でアーナーあります。

のたすもと」とよくと思ひます。

内 勤・及・ひ・競・事・有・名

第五回 村落社会 研究会大会

「過去一年の研究の成果についての反応と展望」

ついての反応と展望」

共同課題

「農家人口の変動と家族の構造」

三日 時

昭和三十一年十月十八日(大)

三場 所

大阪市内、毎日新聞大阪本社講堂

研究報告

大内 力

收入合計

一九一五二円

大会報告時残高総入

一九五四

会費收入(大会当日払込五〇人)一五〇〇

五〇

(以後払込六名、内一名)
百円來年度分共

一九〇〇

庄所 錦堯上(大会以降)

三〇

錦行 利子

八一

振替口座 利子

三七

支出合計

六一五七円

手取郵便料(郵便局へ)

四七〇

委員会通知費

三〇三
一二〇〇

印刷費

一四二四

同送料

一四〇〇

N14 印刷費

一一三六〇

同送料

一二九九五円

成員と課題」をして「村落研究の成員と課題」を

要申藤矢氏は、九州支所に勤務中であつた

世に商いましたところ、今度、農業総合研究所資料部長

が、今年は次のとして就任され、東京篠谷区麻布新竜士

町に転居いたしまして、オーナーを出張する

こととなりました。秋の大会には、会員諸氏

林 三郎氏(早大・文学部)は、練馬区南町
三十日五九七六番地へ転居された。

坂野治郎氏(山梨大)は甲府市横沢町五八の
四、山田武治様方へ転居された。

新規(大會)君

岸里修一氏(新潟中央高校)新潟市学校町二、
中央高校内

渡辺洋三、中村吉治

(適当な人を選定していなかった)

会計中間報告(昭30.4.28現在)

支 出 合 計

一九一五二円

大会報告時残高総入

一九五四

会費收入(大会当日払込五〇人)一五〇〇

五〇

(以後払込六名、内一名)
百円來年度分共

一九〇〇

庄所 錦堯上(大会以降)

三〇

錦行 利子

八一

振替口座 利子

三七

支 出 合 計

六一五七円

手取郵便料(郵便局へ)

四七〇

委員会通知費

三〇三
一二〇〇

印刷費

一四二四

同送料

一四〇〇

N14 印刷費

一一三六〇

同送料

一二九九五円